

江別市「生涯活躍のまち」ココルクえべつ

生涯活躍のまち整備事業の概要

生涯活躍のまち整備事業の概要①

《生涯活躍のまち構想（日本版CCRC）とは》 H27年6月～

⇒ 地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の多世代の住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す。

移住希望者

希望に応じた住み替え支援



移住相談窓口など

移住・
住み替え



空き家の改修、
サ高住の整備など

- 大都市から地方への移住や、地域内で「まちなか」への住み替え等。
- 移住希望者のニーズを踏まえたいきめ細やかなコーディネート。

健康でアクティブな生活の実現



就労・起業支援など



生涯学習、
リカレント教育など

- 健康づくりや就労・生涯学習など社会的活動への参加等により、健康でアクティブな生活を目指す。
- 中高年齢期の早目の住み替えで地域での活躍を期待。

地域の多世代の住民との協働



多世代交流センター、
地域サロンなど

大学等との連携など

- 入居者間の交流のみならず、地域の若者等多世代と交流ができる環境を実現。大学等との連携も。

地域包括ケアシステムとの連携



生活支援・介護予防
健康管理・健康づくり

- 入居者と地元住民へのサービスが一体的に提供される環境を整備。

「継続的なケア」の確保



医療・介護サービス

- 医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる体制を確保。

官民連携の取組



- 自治体に加え、移住支援やまちづくりを行う事業者、医療・福祉サービス事業者、地域住民などの参画により、多様な意見が適切に反映されたまちづくりを推進するとともに、持続可能なサービスを提供。

生涯活躍のまち整備事業の概要②

《全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」とは》 R2年6月～

これまでは中高年齢層の移住に重点が置かれていたが、制度の縦割りを超え、全世代を対象として移住者や関係人口、地元住民など「誰もが居場所と役割を持つ『ごちゃまぜ』のコミュニティづくり」に移行してきている。



生涯活躍のまち整備事業の概要③

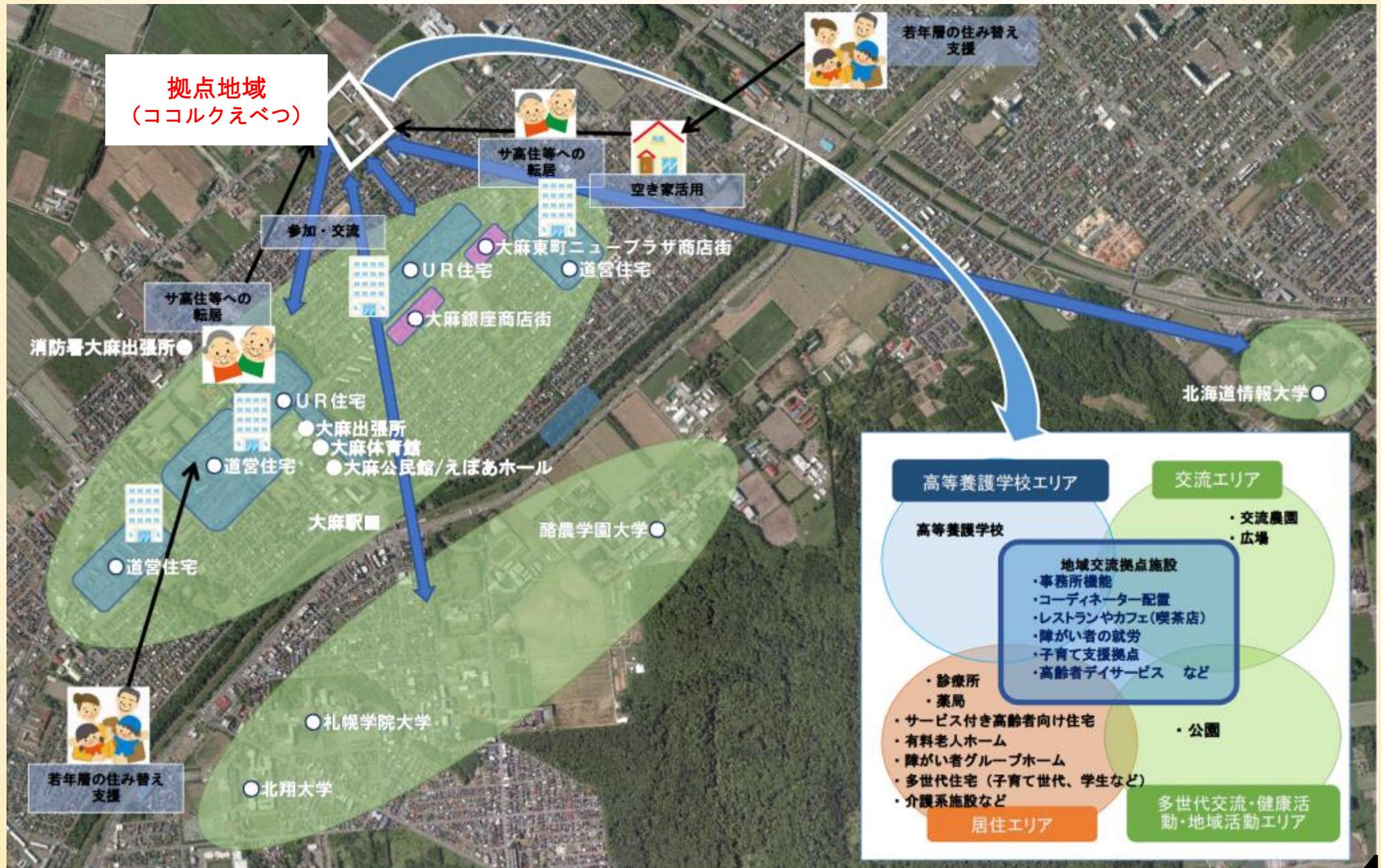
◇ 江別版「生涯活躍のまち」構想

- ① 江別市民が住み慣れた地域で、生涯にわたり医療・介護サービスの充実や生活利便性が確保され、安心した生活ができる
- ② 若年層や障がい者など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現する
- ③ 地域の特色ある社会資源「4大学（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）、地元産業、商店街など」を十分に活用する

高等養護学校の誘致活動を行っている大麻地区において

旧札幌盲学校跡地の一部を中心とした
「大麻タウン型モデル」を選定

生涯活躍のまち整備事業の概要④



生涯活躍のまち整備事業の概要⑤

◇ 拠点地域の施設配置予定図 ※別紙パンフレット参照



生涯活躍のまち整備事業の概要⑥

◇ これまでの経緯（江別市）

年	月	内 容
2017年 (平成29年)	3月	江別版「生涯活躍のまち」構想策定〔大麻タウン型モデル〕
2018年 (平成30年)	5月	事業者公募開始
	8月	事業者決定〔社会福祉法人 日本介護事業団〕
2019年 (令和元年)	6～10月	市内団体等への出前講座 自治会・学校・自動車学校等の近隣関係団体に事業概要の説明
2020年 (令和2年)	3月	江別市生涯活躍のまち形成事業計画策定
	4月	生涯活躍のまち開設準備室を大麻第二住区会館に開設
	6月	建築工事開始 (特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・看護小規模多機能型居宅介護事業所)
	7月以降	建設工事開始 (サービス付き高齢者向け住宅・障がい者就労訓練グループホームなど)
	7月	江別市「生涯活躍のまち」名称決定『ココルクえべつ』
	8～10月	市民ワークショップ開催